



NAZARI K
IN
SEXUAL STATUS

はあ

はあ

「くふふ、アインズ様あ

遂にこの日が来ましたね！」

「私とアインズ様の新婚初夜……」

「今宵は心ゆくまで可愛がって下さいね♡」



「あ……私、
こうしているだけで……」



あ……私、
こうしているだけで……

「あつ……はあつ……」



アツアツ

「んんん」

ゴゴゴ

うん

うん



はみ

はみ

「アインズ様の至高のオーラに

当てられて、軽く達してしまいました♡」

「さあ、アインズ様

どこでもお好きに愛でて下さい♡♡♡♡」





アインズ

「あ……アインズ様の御手が胸に……♡
ミコチラミに来て最初の頃を思い出しますわ……」



フ
ッ
フ

フ
ッ
フ
ッ
ッ
ッ
ッ
ッ

フ
ッ
ッ
ッ

「おっおっおっ」



ゴキブリ
ハダシ

「あああ……アインズ様あ……素敵です♡」

「これが至高のドレインタッチ……」

ドンドン吸われていくのがわかります♡♡♡♡♡

「あっ！あっ！アインズ様あ、私、もう……」





「んんっ」
（イクっ）

フ
フ
フ

フ
フ
フ
フ
フ

ハ
ハ
ハ

「あああ、
アインズ様あ……私、
今達しましたあ♡」

はみ

はみ

はみ

はみ



「……ん、あ、はい♡」
「よろしくお願ひしますら♡」





アッアッ

「あああああああつ!♡」

「やあ♡すごつ♡あああああああつ!♡」

「あつ♡あつ♡私またつ♡」

「またああつ!!!♡♡♡♡」



「……あ……あ……あ……」

「……ああ、私の……」

「愛しのアインズ様……♡」

— 状态異常解除完了 —



「ああ、愛しの我が君……」

遂にこの日が来たのでありんすねえ……」

「今宵は存分に愛でて頂きたく存じんす♡」

ニクニク

ニクニク



「……あ♡、宜しくお願ひします。」

ズレ



「んはっ!?!」



「あぁっ、すごいっ！」

「吸われてるっ、

アインズ様に私の全てが吸われてるっ！♡」

ドゥン
ドゥン

ムク

「あっ、あっ、すごっつ、あああっ！」
「イクっ、私、もうイキますうっ！♡」

ドゥ
ドゥ
ドゥ
ドゥ
ドゥ
ドゥ

ドゥ
ドゥ
ドゥ
ドゥ



「いっんーいっんーっっ……!」
（イクウウっっ……!）

ト
ク
レ
ン

ト
ク
レ
ン

ト
ク
レ
ン

ト
ク
レ
ン



「……んっ…はいい、

すごく良かったで、ありんす……♡」

はな

はな



「っほおおっ!?!?♡♡♡♡」

っほおお

っほおお

っほおお



「あああ、あああああああつ！♡」
（イった直後で敏感になってて……
これえ、すごお！♡）



「あああああああ！♡

「あっ♡あっ♡やつ♡

また♡すぐっ！♡」

(すごく大きいの来ちゃうっ！？♡♡♡)



ガクガク

ドニ
ドニ
ドニ

ドニ
ドニ
ドニ



「イングウウー……!!!」

ドクドクドクドク

ドクドクドクドク

ドクドクドクドク

♡♡♡♡

「……ああ、ア、インズ様あ♡
「愛しの、我が君い……♡」



— 状态異常解除完了 —





「すみません、
アインズ様……。」
「よ、よろしく
お願いします……。」

トキ
トキ



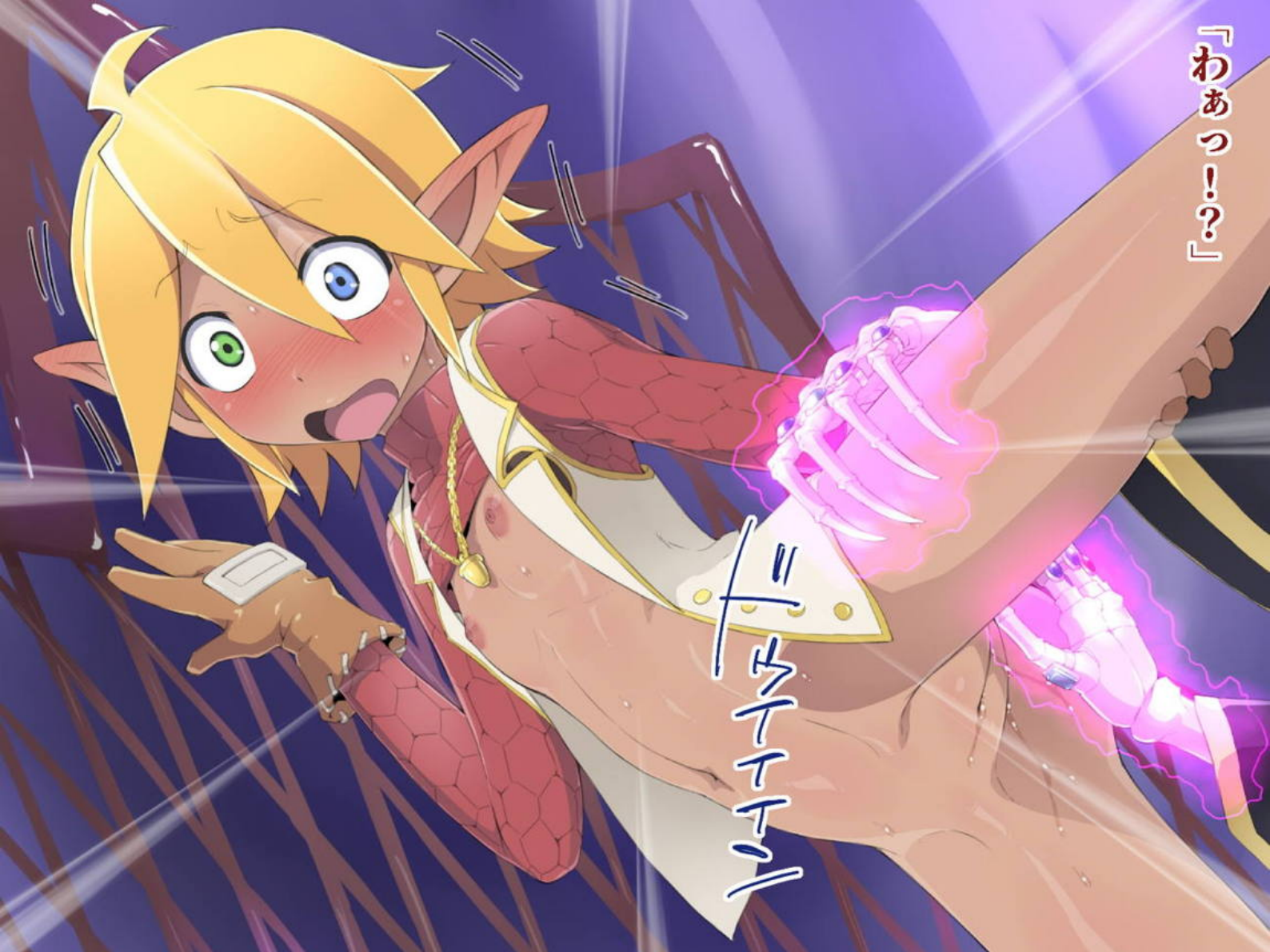
「……あ」

(アインズ様の手が

お尻に……)

はな

はな



「わあっ!?!」

「クククク」

「あぁっ、なにこれえ……」

「アソコがムズムズして……」

「茶釜様のお声を

聞いている時みたいに胸が

キュンキュンしますう……」

ムゲム

ドクドク

ドクドク

トク



「あつ、あつ、あつ、あつ、あつ、あつ！」

「アイっ、インズ様あつ！」

「なんか変ですっ！」

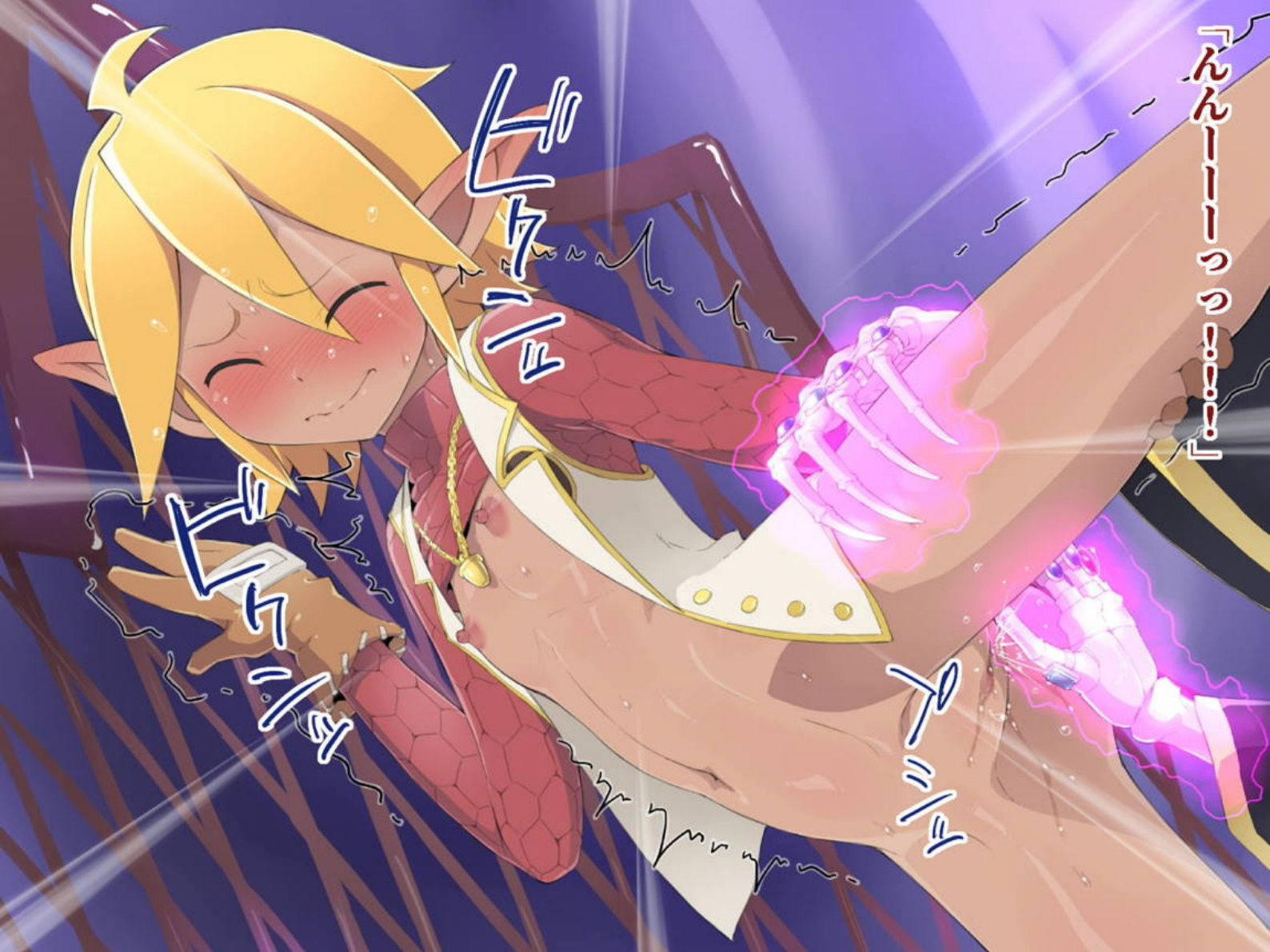
「あつ、やだっ、なんかあ

……なんかっ！」



ガッガッ

トクニトクニ



「何い？……」

今、頭が一瞬真っ白に……」

（すごく幸せ……これじゃますます
アインズ様の事……）



「あ、あの……アインズ様？」

「宜しかったら……その……」

「腰に手を当てて頂けませんか？」



「お、ひやあつ!?!?」



「あああつ！アインズ様あああつ！」

（あの時、急に腰に手を回されて

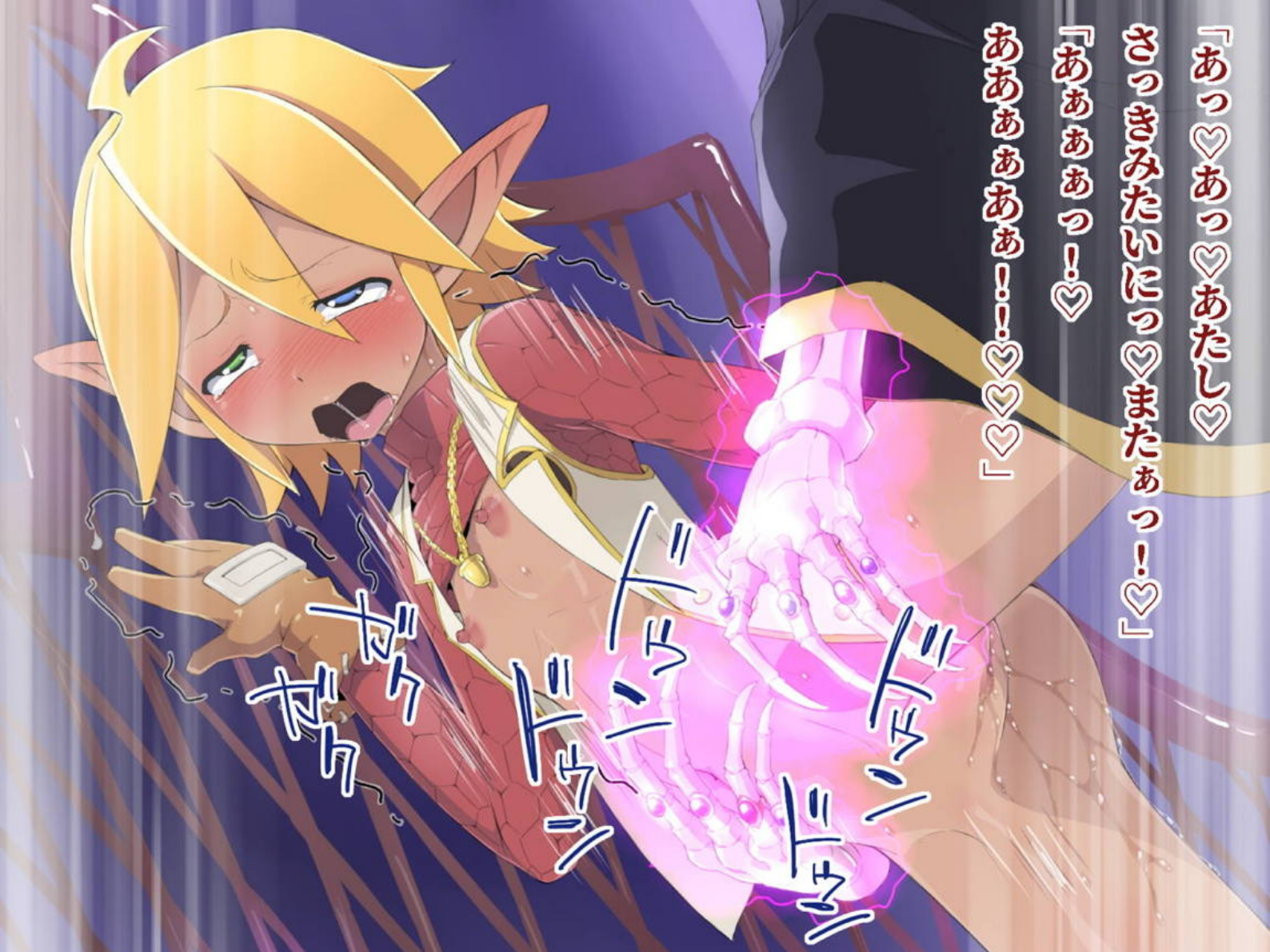
ビックリしちゃったけど、

思えばあの時からすごく

意識しちゃうように……）

「ドドドド」





「あっ♡あっ♡あたし♡

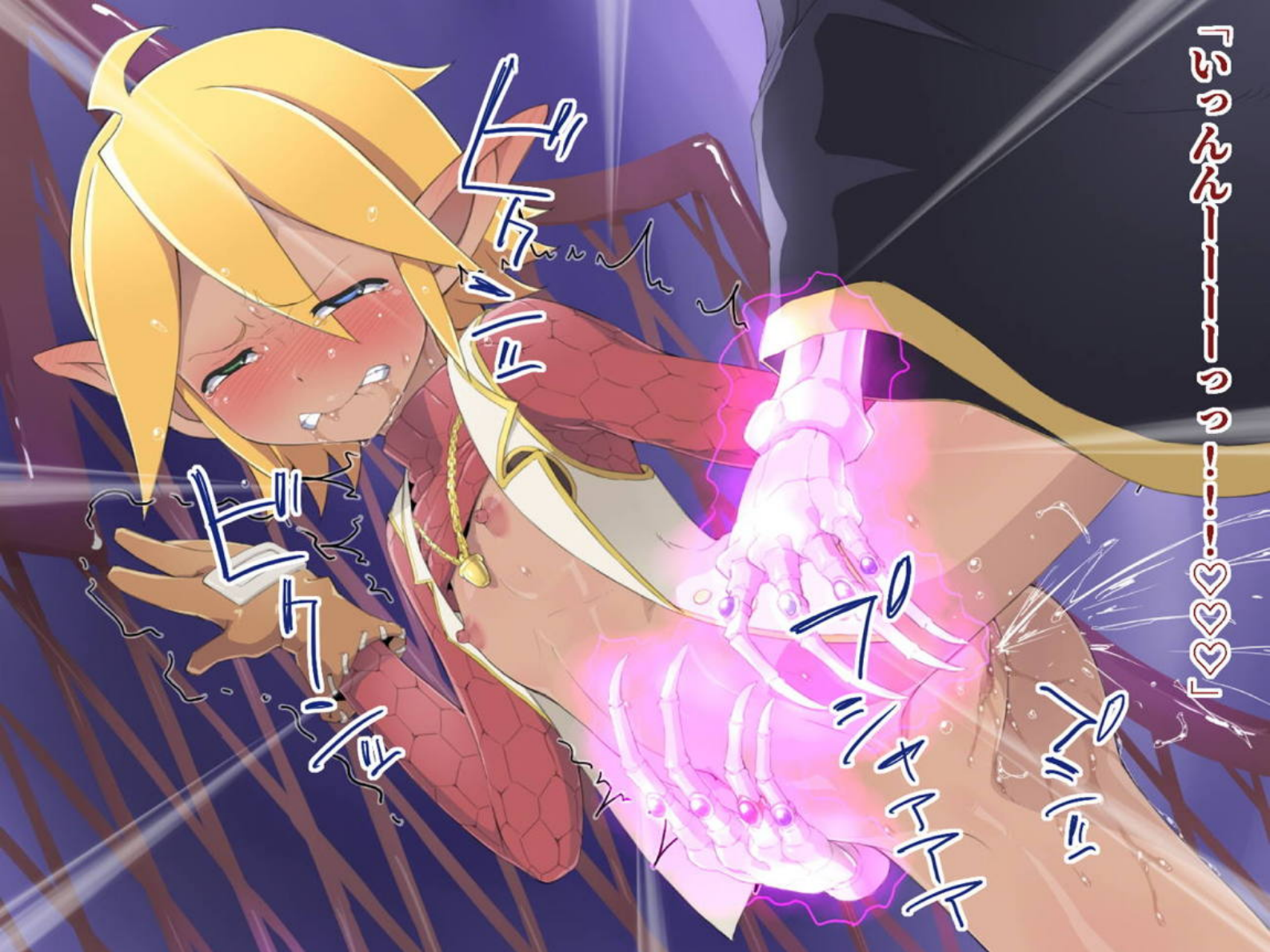
さっきみたいにつ♡またあっ!♡」

「ああああっ!♡♡♡♡

あああああ!♡♡♡♡」

ザクザク
ツツツ
ツツツ

「5622-1-0000000」





「……ああ……あ……」

「ありがとうございましたあ……♡」

—狀態異常解除完了—





「あ、あの、アインズ様……」

「その……ごめんなさ……」

ボク、男の子なのだ……

こんな……」



『oooooooooo』



なぞ
なぞ

ムク
ムク

ムク

（……優しく頭を撫でて
くれるアインズ様の手……
暖かい……♡）



「はぁぁぁー!?!」

トッ
トッ
トッ

ゴッ
ゴッ

ゴッ
ゴッ
ゴッ



「アッ、アッ、アッ」

「あ、あ、あ」
(何いぞ、アッ~~~~~
心地良〜……)

「あっ、あっ、
アイシズ様あつ！
なんか、ボク変なんですっ！」

ド
ン
ド
ン
ド
ン

「やあ、なんか、
おちんちんが、
ムズムズして、
何か……っ！？」







「あれ？」

ボクお漏らししちゃった

みたいで、ごめんなっらっ」

はぁ

はぁ

はぁ

フクッ

フクッ



「ひやあああああつ!♡」

「あああ」

「アインズ様あああつ!♡」

ガクガク

ズンズン

トク
トク
トク

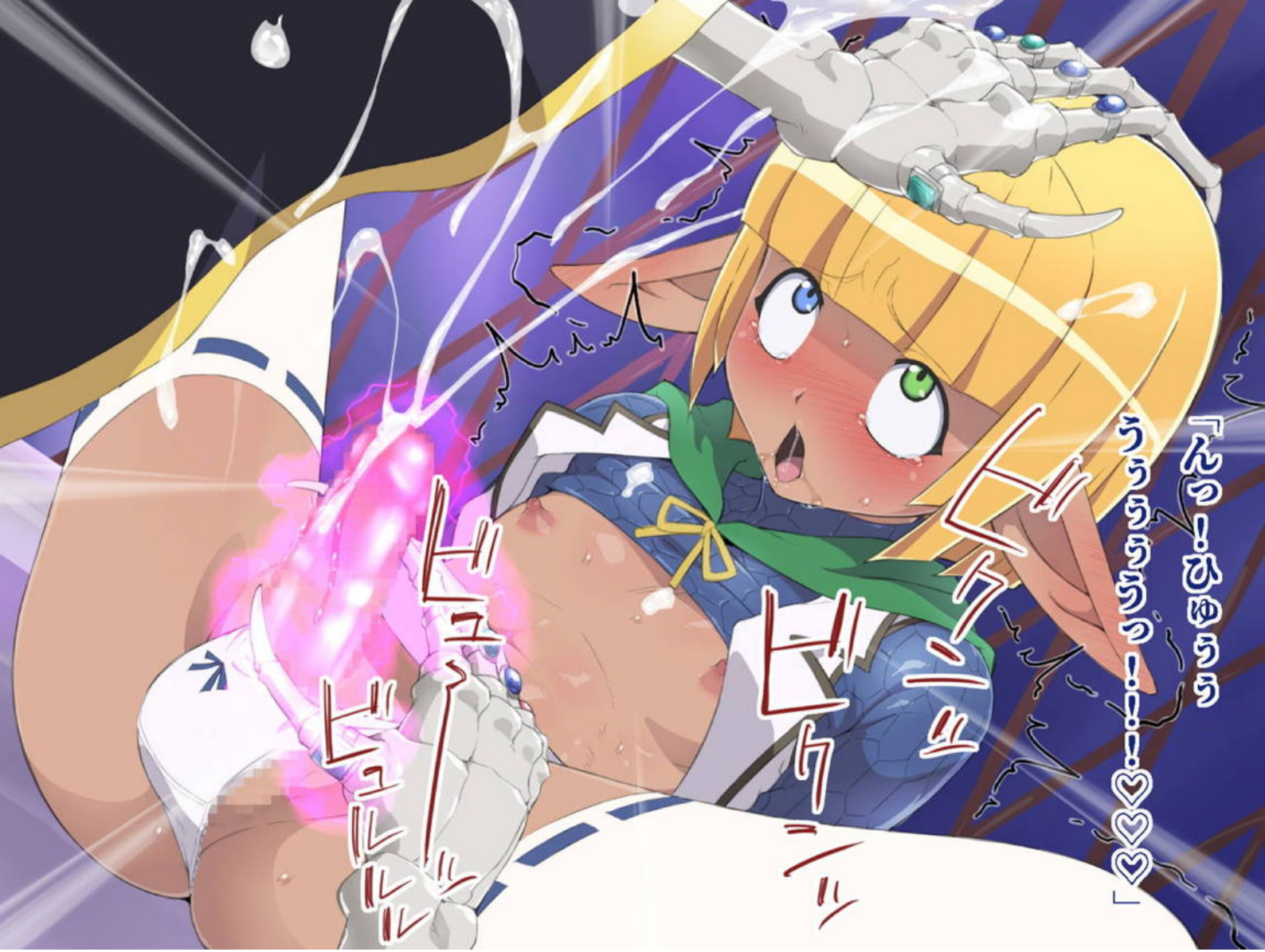
ボク!♡またっ!♡

またあつ!♡♡♡♡

（ああつ、今頭を撫でられ

たらああつ!♡♡♡♡）





「さあ、おどろけなさい」

「さあ、おどろけなさい」



「……あつ……ああ……あ……あ……♡」

「ボク、こんな」

「沢山、お漏らし……ごめ」

「んなさい……」

「クキキ」

「クキキ」

「クキキ」



—状態異常解除完了—